

令和3年度 大田区立入新井第四小学校 自己評価 報告書

令和4年2月21日

○ 本校の概要

教育目標 ○心ゆたかな子 ○ともに学ぶ子 ○たくましく生きる子
 目指す学校像
 ○児童にとって、安心して自分を表現でき、目標をもってがんばる過程が認められ、自己肯定感が育まれる学校 ○保護者にとって、安心して通わせることができ、子供たちのために協力したいと思える学校 ○地域にとって、親しみと誇りを感じる存在で、学校の活動を応援・支援したいと思える学校 ○教職員にとって、改善に向けた取組の成果や学校組織の一員としての貢献を実感できる学校
 学校経営の方針
 (1)知、徳、体のバランスのとれた生きる力を育成する。(2)意欲あふれる学びの場や学びの機会をつくる。(3)児童一人ひとりに寄り添う教育を推進する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	タブレットを使って学習や家庭学習をすることができると回答した児童の割合	4: 80%以上	今年度、2学期学校公開、夏休み作品展をオンライン公開とし、2学期以降Googleクラスルームを活用した、各学級での時間割や宿題等の連絡が日常化した。 また、授業の中で児童がタブレットを使って調べたり、写真や動画で記録したり、発表したりする活動や、タブレットドリルなどのドリル学習を行っている。全員が自信をもって、タブレットを使った学習ができるよう今後も工夫しながら学習活動に取り入れていく。	A	2	・成果指標をタブレット活用に絞ったのは疑問が残る。「どちらかというところ」児童を含めず「できる」と答えた児童のみを対象としており厳しいが、あと1%上げて「3」にしたい。 ・英語やPCを使えるということがすごい。ただ今後の日本語はどうなるのかと懸念もあります。 ・毎月行われる長縄朝会では児童はどの学年もいきいきと取り組み、体力向上とともに団結力や協調性も養われていると感じました。 ・コロナ禍、平素とは違う授業に先生も子ども達も戸惑いを感じていると思います。タブレットのことを数名の子どもに聞いてみたところ、楽しいという子が大半でした。タブレットを使い絵を描いたり、ゲームを考えたり、驚きでした。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4				3: 70%以上 80%未満	B		3
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する至正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4				2: 60%以上 70%未満	C		0
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4				1: 60%未満	D		0
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	毎学期の期末テストの達成率が70%以上の児童の割合	4: 80%以上	算数少人数講師、学習指導講師による習熟度別少人数指導、各学年週1回の放課後補習指導、年6回の土曜補習を行い、個に応じた学習指導、学習支援を行い、一人一人の確かな学力の育成に努めた。 年6回の東京ベーシックドリル診断シートの実施で、児童個々の理解状況をより細やかに把握し、学習内容の定着を促進した。今後、タブレットを利用して、学習内容を復習する方法の一つとして、ベーシックドリル電子版を学校、家庭学習で活用していく。 期末テストを低学年以外の全学年日程を統一して実施した。実施前1週間には、各自の自学自習を計画し、実施後の振りかえりを家庭の協力も得て行った。今後も学習内容の確実な習得に向けて授業と補習体制の充実に努めていく。	A	4	・土曜補習や日々の学習指導等で、先生が児童一人ひとりの学力を見極めその子に合った指導をしていました。 ・期末テストが近づいている時、双子の姉弟が「いま期末テストの勉強してるんだ！がんばるぞ。」と言っていました。メリハリのある学校生活、素直に溶け込んでいる子供達、「学校は楽しい」70%はうなずけます。 ・学力、学力、学力がやはり一番と思います。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3				3: 70%以上 80%未満	B		1
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4				2: 60%以上 70%未満	C		0
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3				1: 60%未満	D		0
		東京ベーシックドリルを活用し、前学年学習内容の習得率を向上させる。	4:習得率7割以上の児童が8割以上だった。 3:習得率7割以上の児童が7割以上だった。 2:習得率7割以上の児童が6割以上だった。 1:習得率7割以上の児童が6割未満だった。	3							
プラン3	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとと	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守るうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	挨拶をしていると回答した児童の割合	4: 90%以上	中学校区で学習規律・生活スタンダードをテーマとし、学区内の各校で一致して指導を行うことができた。 学校生活調査結果とともに、日々、児童の心情に寄り添い、その気付きを日常的な報告・連絡・相談で共有し、必要な具体的支援を行った。	A	4	・挨拶をきちんとする児童が増え自己肯定感の向上を感じます。 ・コロナ禍でありましたが、5年生の児童の皆さんは、45分間集中を切らさずに落語を聞いていました。寒い体育館で正座をして聞き、笑う子ども達の姿に、大人の私が学ばされました。 ・不登校支援会議が毎月開催されており、保護者と児童両方に適切な支援を行うことができていると感じています。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				3: 80%以上 70%未満	B		1
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							

豊かな心の育成	もに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上 80%未満	いじめ未然防止に向けた授業を実施するとともにいじめ調査を学期1回実施、ハイパーOUの活用により、SC、養護教諭、担任と連携して早期の状況把握と適切な対応を行い、いじめを解決できる校内体制を推進した。	C	0	・月に一度の不登校支援会議、朝に気になる子供の話をするとすぐに対応して下さいます。子供が楽しそうに登校する姿に優しさをもらっています。 ・不登校者Oになることを望みます。 ・朝の挨拶は、日によっては90%以上の子供がきちっと挨拶してくれます。しかし寂しい日もあります。目が合っても無視する子もいます。気長に大人がきちっと挨拶をしてお手本を示すことが大事だと思っています。	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4						1: 70%未満
		学習・生活スタンダードに基づき、子どもたちがきまりを守って学校生活を送れるようにする。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4						
プラン4 健康の増進 体力の向上と	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上 3: 70%以上 80%未満 2: 60%以上 70%未満 1: 60%未満	家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を行い、望ましい生活習慣づくりについて意識を高めた。 低学年の「そら豆の皮むき」「トウモロコシの皮むき」等体験活動を重視した食育を推進した。基本的な生活習慣確立など健やかな体の育成を今後も進めていく。	A	3	・朝ごはんを食べてこない児童がまだ見受けられます。家庭の生活習慣に課題がある児童もいるようです。 ・早寝、早起きは本当によい事だと思います。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4						
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 90%以上 3: 80%以上 90%未満 2: 70%以上 60%未満 1: 60%未満	区の教育研究会主催の授業公開に参加し、得られた研修の成果を、授業に取り入れ実践した。 毎週1回、校内支援委員会を開き、支援の必要な児童についての情報交換、支援の方針と具体的な対応についての検討を行った。 校内研究「教えて考えさせる授業」を通して学習事項の基礎基本の定着とともに、友達と対話し考えの交流をすることで、自分の考えが広がったり深まったりすることを感じられる授業となるよう、授業改善を進めてきた。	A	4	・いつ学校に来て、廊下がびかびかです。学校周辺道路もきれいに掃き清められていて、子供たちが学習する環境が整っていると思います。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
		「主体的・対話的で深い学び」を実現する「教えて考えさせる授業」の実践に取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4						
プラン6 教育が 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4: 60%以上 3: 50%以上 60%未満 2: 40%以上 50%未満 1: 40%未満	保護者アンケートの「学校は教育活動を適切に伝えている」「学校は保護者からの相談や要望に対して適切に対応している」の項目で「そう思う」と回答した割合 土曜補習教室では、学校支援地域本部が取りまとめ役となり、毎回、教員とともに平均10人地域サポーターが支援に加わり、地域と一体になって、子どもたちの学力向上に取り組んだ。 今年度は特に、保護者や地域から頂いている学校や子どもたちへの様々な支援について活動の認知度を上げるため、学校便り等を活用し紹介できるよう心がけた。今後も学校便りやHP等で学校から積極的に発信できるようにしていく。	A	1	・プラン3の学校の取組評価も大切にしたい。今後「3」にしたい。 ・好き、嫌いや長所を生かす教育を望みます。 ・地域教育連絡協議会での学校のご報告が毎回とても分かりやすい。しかし、委員の出席率が残念です。コロナ禍だからでしょうか。 ・スクールサポートいりしを中心に地域と保護者が一体となり、学校に協力支援しました。常に学校と連携し、児童が快適に学校生活を送れるように努力しています。 ・学校支援地域本部のサポーターの皆さんの協力が素晴らしいです。		
		4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							
		4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。